

## カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

静岡県立大学短期大学部では、一般教育を重んじ、これと密接な関連を保ちつつ、深く専門の学芸を教授研究し、実際的な応用能力の展開を図り、時代の要請と地域社会の要望にこたえうる有為な人材を育成することを目的とし、歯科衛生学科、社会福祉学科、こども学科を設置しています。各学科ではこの目的に沿ったディプロマ・ポリシーに基づいて教育課程を編成しています。

### 歯科衛生学科

歯科衛生学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、教養科目及び専門科目を系統的かつ段階的に学べるよう、次のとおりカリキュラムを編成しています。

- 1 人間理解、人間と現代社会、地域と生活、人間と自然環境、知の技法、健康とスポーツからなる教養科目での学びを基礎とし、専門基礎教育科目、専門教育科目を履修することにより、歯科衛生に関する専門的知識と技術を修得し、それらの実践を通して対象者との良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を育成する。
- 2 人間と自然環境、知の技法、健康とスポーツの教養科目での学びを基礎に、課題解決型の授業（演習・実習）等を組み込んだ専門教育科目の履修や臨地実習における歯科衛生の実践を通して、人々の健康に関する諸問題を分析、解決できる論理的思考力や問題解決能力を養う。
- 3 歯科衛生業務を理解するための専門教育科目や基礎から応用へと段階的に学ぶ臨地実習科目の履修を通して、歯科衛生を実践する者としての役割と責務を自覚し、歯科衛生に関する一連のプロセスを的確に遂行できる力を養う。
- 4 学科共通科目や医療福祉関連科目の履修により、人間関係、対人援助等に関わる知識と技術を学び、臨地実習を通して他職種との協働・連携に必要な医療人としての規範意識とマナー、社会性、協調性、判断力を身につけ、豊かな人間性や倫理観を養う。
- 5 健康科学、食生活、医療福祉関連科目、専門教育科目の履修を通して、対象者の生活環境や全身の健康状態等を総合的に把握し、人々の健康づくりを支援するための幅広い知識・技術・態度を養うとともに、専任教員による少人数制の臨地実習指導により主体的な学習姿勢、生涯にわたり自ら学び続ける能力を養う。

1年次には教養科目、専門基礎および専門教育科目、専門職業人としての役割を理解するための科目や臨地実習（基礎）、2年次には専門教育科目の講義と専門的知識・技術を学ぶ学内実習科目、医療福祉や対人援助に関わる科目、地域の高齢者、幼児・学童等を対象とした臨地実習（応用）へと段階的に学び、3年次には多様な臨地実習により有病者、要介護高齢者や障がいのある方等への支援の方法を更に深く学べるように編成しています。歯科衛生学科では、教育内容に応じてアクティブラーニング、体験型実習等も活用します。

学修成果の評価方法は、各科目の到達目標に対応して行います。

## 社会福祉学科

社会福祉学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、教養科目及び専門科目を系統的かつ段階的に学べるよう、次のとおりカリキュラムを編成しています。

### (社会福祉専攻)

- 1 教養科目では、人間理解、人間と現代社会、地域と生活、健康とスポーツ、総合の群により、問題解決力と論理的思考力を養う。人間と自然環境、知の技法では、コミュニケーション・スキルや数量的スキル及び情報リテラシーの能力を養う。
- 2 社会福祉の基礎となる科目では、社会福祉制度の仕組みを理解し、人間の価値や尊厳の保持という人権尊重の意義・福祉観の形成及び倫理観と自己管理能力を培う。
- 3 学科共通科目では、保健医療分野と連携しチームワーク、リーダーシップなど他者と協調・協同して行動できる能力を養う。
- 4 教養科目、社会福祉の基礎科目の学びを礎に、社会福祉士養成に関する科目では、利用者のニーズ把握と相談援助という高度な社会福祉専門的知識と技術を講義と学内演習で習得する。それらと連動させて、保健医療分野との連携協同の必要性の理解を促す。一連の学びについて、ソーシャルワーク実習を通じて、その意義の理解と倫理観の向上を図り、社会福祉士としての実践力を培う方向に導く。
- 5 保育士資格に関する科目では、保育の本質、目的、内容及び方法について系統的かつ段階的に学び、保育実習により保育活動を展開できる実践的能力を養う。さらにソーシャルワークの専門知識・技術の学びと実習を通じて、多様で複合化・複雑化する子ども・家庭及び社会的養護のニーズに対応できるよう、理論的・創造的思考力を身につける。

### (介護福祉専攻)

- 1 教養科目群である人間理解、人間と現代社会、地域と生活、人間と自然環境、知の技法、健康とスポーツの各群の学びを基礎とし、介護福祉及びその隣接科目を配置することにより、社会に貢献する福祉人材の基盤となる、豊かな人間性、倫理観、総合的判断力を養う。
- 2 介護福祉の専門科目として、人間と社会、こころとからだのしくみ、介護、医療的ケアの各領域を講義と演習により体系的に学修することで、介護実践を担保する専門的知識・技術を修得する。
- 3 学科共通科目、人間と社会の領域や介護の基本、コミュニケーション技術、医療的ケア領域に含まれる科目において、ケースメソッド等の手法（演習形式）を取り入れることにより、保健医療分野と連携するチームワーク、リーダーシップなど他者と協調・協働して行動できる能力を養う。
- 4 生活支援技術や介護過程等の講義・演習を土台として、発展介護技術、発展介護過程等における少人数グループによる課題解決型学習（演習形式）を通して科学的思考と介護実践のプロセスを段階的に学修し、利用者の介護に係る論理的思考力や創造的思考力を身に付ける。
- 5 介護総合演習、介護実習において、専門科目での学びを総合的に活用することで、介護福祉の実践者として自身の行動を律するとともに、生涯にわたって学び続ける能力を養う。

1年次には、社会福祉の基礎的知識を学び、人々の暮らしの中の様々な生活課題について、目指す資格に応じて、論理的思考力やニーズ把握等に対応できる専門的な知識・技術を学びます。実習では講義と演習で習得した知識と技術をもとに対象や施設の特性について理解を深めます。2年次は、サービス利用者に対する支援の方法について、講義、演習、実習を通じて段階的、発展的に理解と実践力を深めていきます。

学修成果の評価方法は、各科目の到達目標に対応して行います。

## こども学科

こども学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、教養科目及び専門科目を系統的かつ段階的に学べるよう、次のとおりカリキュラムを編成しています。

- 1 教養科目では、人間理解、人間と現代社会、地域と生活、人間と自然環境、知の技法、健康とスポーツ群からなる授業科目を通して基礎力を養い、時代の要請と地域社会にこたえる保育を創り出す力を養う。
- 2 保育の基礎理論に関する科目では、保育の意義と理念、子どもの心身の発達と学びの過程、保育の方法及び技術等を系統的かつ段階的に学び、子ども理解を深め、保育活動を創造、展開する能力を養う。また、保育の計画及び指導法に関する科目では、子ども理解に基づいた保育の立案や、保育内容の指導法を獲得することにより、子どもの実態に応じた教育・保育活動を創り出すことのできる能力を養う。
- 3 保育の技術に関する科目では、保育の表現技術を学び、子どもの表現について深く理解すると同時に、自らの表現技術を高め、実践力を育成する。
- 4 福祉の課題に関する科目では、様々な困難を抱える子ども・保護者の状況や、地域の機関について理解を深める。そして、相談と援助に関する科目では、相談・援助の理論と方法の知識を獲得することにより、他の保育者や保護者、更には地域の機関と協働する上で、調和を重んじながら進めることのできる知識や態度を養う。
- 5 卒業研究、保育・教職実践演習では、主体的に課題を見つけて考察し、研究しようとする態度と力を養う。

1年次には、教養科目を通して保育の専門職に必要とされる教養を学び、専門科目では保育の専門職に必要とされる理論的基礎と実践的知識を修得します。2年次には、1年次で学んだ内容を土台として、段階的、発展的に専門の学びを深められるように編成しています。1年次後期より、教育実習と保育実習が組み込まれ、講義と演習で獲得した知識と技術を実践で活かしていくことのできる力を養います。

学修成果の評価方法は、各科目の到達目標に対応して行います。